



令和 6 年度(2024 年度)

学校評価・年間評価

〈重点目標と活動指針〉

令和 7 年 3 月 1 7 日

長野県野沢北高等学校

学校教育目標	教養を高め、知性を磨き、心身を鍛え、豊かな環境と平和な世界を希求し、地域社会、国際社会の有為な形成者を育成する。	総 合
重点目標(中・長期的目標)	・互いの人格を尊重し、豊かな環境と平和を希求し、真理と正義を愛する自主的精神に充ちた人格の育成を図る。 ・120 年を超える伝統に培われた本校の教育力を発展的に継承し、人間性の陶冶と自己実現を図るための高い学力養成を目指す。	以前は行動制限がある中で、生徒たちが少しでも充実した学校生活を過ごすことができるように、教員が丸となって創意工夫して取り組んできた。行動制限がほぼなくなったことで、学校全体で様々な活動を積極的に取り組んだ結果、全体的な活気が出てきている。 今年度も変わらずに取り組んできた成果に対する前向きな評価がされている。来年度の目標には、今後もさらなる教育の向上と充実の実現を目指す教員の意欲を感じる。
本年度の重点目標	1. 生徒自らが課題を見つけ、主体的に学ぼうとする姿勢を育むとともに、多様で高度な学問領域の探究心を育成する。 2. 生徒一人ひとりの進路実現およびその後の学問探究のために必要な学力の養成をすすめる。 3. 自主自律の生活習慣を確立し、より安定した学校生活をおくることができるよう支援する。 4. 教員相互の授業見学をさらに進めるとともに、より良い教育活動のための教育環境を整備する。 5. いじめ・体罰のない安全・安心な学校づくりを進める。	

対象	自己評価項目	自己評価の観点	成果と今後の課題 2025 年 3 月	2024 年度 年間評価				来年度の目標・向上策 2025 年 3 月
			反省＝自己評価	A	B	C	D	来年度取り組むべき・ 取り組みたい課題と目標
学 習 支 援	教員研修	オンライン授業や学習教材を配信するためのスキル習得を目的とした教員研修を実施する。また公開授業NOK I T Aを通して教員間の授業見学を活発にし、より良い授業を追求する。	GIGA スクールサポーター来校時に個別相談に応じていただき、教員個々のスキル向上に努めた。 また、公開授業 NOKITA を複数回行うことで、教科の枠にとられず、教員間で授業で授業改善を行った。		○			デジタルデバイスやコンテンツを活用した授業の展開の仕方について研修を行い、より効率的かつ効果的な授業を目指す。
	学習習慣の確立	定期考査前の自習道場だけでなく、クラブ活動の休みの日などを利用して学校での学習時間を確保できる取り組みをする。	学習室利用の促進をし、生徒の意識向上に努めた。		○			学習時間の確保と合わせて、家庭学習における学習内容の充実を図る。
		家庭学習のサポートをするために、オンラインで動画や学習教材を配信していく。	Google やロイロノート、スタディサプリを導入し、活用することで学習効率を上げることができた。		○			デジタルコンテンツを活かした学習活動の更なる充実を図る。
	授業の見直し	「探究」活動を通じて、生徒の主体的な学びと表現力を育成していく。	積極的に学校外に出て、他者と関わることにより、物事を多角的に捉え、協働の大切さを学ぶことができた。		○			教科を横断した探究的な学びについて研究する。
		I C T機器の積極的な活用を目指す。	各教科の授業や探究活動において、積極的な ICT 機器の活用が見られる。		○			ICT 機器の効率的かつ効果的な活用方法について研修をし、授業の内容充実を図る。
		年 2 回実施の授業アンケートで生徒の授業に対する満足度を詳細に把握し、不満足割合が 1 割未満となることを目標とする。	各項目の「あまり思わない」「少し遅い」等の不満足割合が少なかった。		○			普段から教員間で授業のアイデアや悩みを共有することで、更に良い授業を目指していく。

対象	自己評価項目	自己評価の観点	成果と今後の課題 2025 年 3 月	2024 年度 年間評価				来年度の目標・向上策 2025 年 3 月
			反省＝自己評価	A	B	C	D	来年度取り組むべき・ 取り組みたい課題と目標
人 権 教 育	人権を尊重する民主的な人間の育成	人権感覚を持ち、他者との関わりの中で、より良い関係を構築できる力を養うための各種活動を、年数回実施する。	10月に「EUがあなたの学校にやってくる」と題して、駐日欧州連合代表部のトーマス・ニョッキ氏による講演会を実施した。		○			様々な人権学習がある中で、今年度は外交官による講演を行うことにより、人権にかかわる国際情勢などについて学ぶことができた。来年度は新たな視点で学習できるようにしたい。
	職員の研修を深める	職員人権学習を年1回実施する。	10月の全校人権学習での講演会を職員人権学習とも兼ねて実施した。		○			人権に関する領域は多岐にわたっており、今後、どのような形で生徒の支援ができるか検討していきたい。
進 路 指 導	野沢北高校としての進路指導体制の確立	地域の進学校として安定した進路実績を残すため、学年・教科間で意思の疎通を図る。年3回の職員向け進路学習会及び指導検討会を開催する(1回は外部講師)。大学入試改革に対応できる進路体制を構築する。	計画通りに実施。7月の職員進路学習会では、従来の学力に加えた3観点評価について1学年が新規に導入したAiGROWについて研修し、また幅の広い学力層に対してスタディサプリの活用例について研修した。	○				進路指導報告会、進路指導検討会での情報の共有化・活用化を図り学年・教科・職員間の意思疎通、意識喚起に努める。
	生徒の進路希望の確認と進路に対する意識付け	生徒の進路希望を的確に捉えるため、各学年、進路希望調査を行う(3学年は複数回)。	各学年とも模試なども含めて進路希望調査を実施できた。		○			学年及び、学校全体での共有化を図り早期の進路指導につなげる。
		保護者面談を含めた生徒面談を、各学年、年に3回以上行う。	各学年とも実施することができた。	○				生徒・保護者の進路希望に対してよりの確な情報を提供する。

対象	自己評価項目	自己評価の観点	成果と今後の課題 2025 年 3 月	2024 年度 年間評価				来年度の目標・向上策 2025 年 3 月
			反省＝自己評価	A	B	C	D	来年度取り組むべき・ 取り組みたい課題と目標
進 路 指 導	生徒の進路希望の確認 と進路に対する意識付 け	人生設計(キャリア)、学問分野や職業に対する理 解を深めるため、1 年次は大学でのインターンシ ップやキャリア講演会を開催する。2 年次は大学 見学会を行いつつ、3 年次に向けた自主的なオー プンキャンパス参加を促す。	1 学年の大学インターンシッ プ、キャリア講演会、2 学年の 大学見学会は夏休みのオー プンキャンパスを通して計画通 り実施できた。	○				探究、課題研究とも連動さ せながら、大学進学の手を 見据えたキャリア支援を充 実させる。
	生徒の進路希望の実現	各学年、学習強化期間を年 3 回以上設け、生徒 の学習状況を確認し、家庭学習に対する意識を高 める。	各学年で 4 回の家庭学習強化 期間を同時期に設定し、学校全 体で学習に取り組む気運を高 めることができた。	○				今年度と同様の取り組みを 行いながら、生徒の学習に 対する意欲を高めていく。
		進路情報を深めるため、各学年、年 2 回以上の 進路講話を行う。また、保護者向け進路講演会を 年 1 回行う。	予定に従って各学年で実施す ることができた。		○			より有用な情報を提供し、 進路希望実現につなげてい けるようにする。
		各学年で夏期補習授業、1 学年では 10 月の学 習合宿、3 学年では特編授業を計画・実施する。	予定通りに計画・実施すること ができた。		○			各授業、行事の意義を生徒 に周知し状況に応じ内容を より一層充実させていく。
		卒業前の 3 学年にアンケートを実施し、本校で の 3 年間の学びに対する満足度を調査する。	3 月卒業時にアンケート実施。 88.8%が本校での学びに対 して「良い」と回答。	○				引き続き充実した学校生活 と進路実現とを両立する態 勢作りに努める。

対象	自己評価項目	自己評価の観点	成果と今後の課題 2025 年 3 月	2024 年度 年間評価				来年度の目標・向上策 2025 年 3 月
			反省＝自己評価	A	B	C	D	来年度取り組むべき・ 取り組みたい課題と目標
生徒指導	自主自律の生活習慣の 確立	あいさつ、交通マナーの向上のための街頭指導を行う。交通マナー向上・基本的な学校生活については、生徒会矯風委員会の自治的活動を支援し、自主自律の生活習慣確立に寄与する。	交通安全、交通マナー呼びかけ、通学路での街頭指導、駐輪場使用状況等確認、ステッカー指導を実施した。		○			矯風委員会の活動を支援し自主自律の生活習慣確立に寄与する。
	「いのち」を大切に した安心・安全な学習環境の確保	生徒が安心して生活できるよう指導する。生徒指導通信「日輪」を発行し全校生徒の意識向上をはかる。また、生徒相談と連携しながら生徒一人一人を支援する。	スケアードストレイト交通安全教室を実施。SNS の危険性への意識向上や生徒相談係と連携した生徒支援内容の生徒指導通信を発行した。		○			自転車用ヘルメットの着用者数が増加するよう呼び掛けに努める。
	職員・保護者・生徒会・ 地域との連携	職員・保護者・地域間で生徒情報の共有と連携をはかる。警察、市少年センターとの連携を継続し情報共有に努める。	JR・千曲バス等との懇談会や学校警察連絡会、佐久市少年センターとの合同巡視を通じて本校生徒の情報共有を実施。生徒指導通信を通じて交通関係情報などを保護者に提供した。		○			交通機関、警察、佐久市少年センター等との連携を継続し情報共有に努める。
生徒相談	生徒の身体的・精神的 健康の保全を図る	生徒の身体的・精神的状態を把握し、健全な高校生活を送れるよう、相談体制の充実、アンケート（アセス等）調査の活用などを図る。	・学校生活の満足度を「アセス」によって把握し、学校不適応生徒の早期発見に努めた。 ・SC、SSW、養護学校と連携し、不適応生徒の支援策を検討した。		○			学校不適応の要因が多様化しているため、家庭・学校・相談機関の連携をより密にして、きめ細かな支援ができるようにする。

対象	自己評価項目	自己評価の観点	成果と今後の課題 2025 年 3 月	2024 年度 年間評価				来年度の目標・向上策 2025 年 3 月
			反省＝自己評価	A	B	C	D	来年度取り組むべき・ 取り組みたい課題と目標
自治活動（生徒会）	委員会活動の充実	学校行事や委員会活動において生徒が主体的に計画をたて、安全かつ適切な運営ができるよう支援する。その際、委員会活動が日常生活においても機能するよう工夫をはかる。	各委員会活動を充実させ、主体的によりよい学校生活にむけて改善を図った。		○			各顧問と連携を図り、全校生徒を巻き込む。多くの生徒たちが積極的に関わられるような企画・運営を行う。
	班活動の充実	95%以上の入班率を維持し、安全にけがのないよう自主的に活動できるように支援する。生徒数の減少がすすむなか、将来の班活動のあり方がどうあるべきか考えていく。	加入率は高水準であるが、より活動の中身を充実させていきたい。教員側の関わりを増やし、生徒が主体的に取り組める環境作りを行いたい。		○			班活動の活性化のために生徒・顧問に働きかける。生徒たちの安心・安全を守り、主体的に活動できるような場の設定を促す。
	地域との連携の充実と情報発信の充実	委員会や班活動で、地域社会との交流を深めるとともに、文化祭などを通じて生徒会活動を伝えていく。	生徒会組織など見直し、現在に見合った組織改正を行った。文化祭ではホームページやInstagramを活用し、情報発信を行った。		○			様々なツールを活用し、情報発信・公開に努める。
学校評価	保護者アンケートの実施	各項目において「保護者による学校評価」を実施し、改善につなげる。	1月上旬にオクレンジャーを利用して、保護者に直接送信して行った。Google Form を用いたが、生徒経由で用紙の受け渡しを行う方法よりも双方にとって効率的であったように思われた。多くの保護者からの回答が得られ、学校としてもその要望にどう応えていくかを、具体的な課題として捉えることのできる良い機会となった。		○			今回行った Google Form の保護者アンケートは、オクレンジャーを受信した方が回答できるようになっていた。しかし、こう少しく細かい設定を行う場合、各保護者に Google アカウントを用意していただくことが必要となるが、学校運営全体で検討していきたい。

対象	自己評価項目	自己評価の観点	成果と今後の課題 2025 年 3 月	2024 年度 年間評価				来年度の目標・向上策 2025 年 3 月
			反省＝自己評価	A	B	C	D	来年度取り組むべき・ 取り組みたい課題と目標
清 掃 美 化	校舎内外の清掃・美化 に努める	清掃・美化の呼び掛け指導を徹底し、清掃時間を確保しつつ校舎内外の清掃・美化に努める。 具体的内容は以下の通り。 ① 教室床のワックスがけ （ 2 月 ） ② 大掃除 3 回（ 6 月・12 月・3 月 ） ③ 日輪祭などの学校行事におけるゴミ処理 以下の 2 点は課題として、今後検討する。 ④ ゴミの減量 ⑤ 予算の増額	通常のゴミ処理に関しては、概ね良好であったが、一部に分別不徹底な部分が見られた。また、廊下・階段等に清掃の行き届かないところがあった。 日輪祭に関しては、コロナ以前並みのゴミ量であったが、多くの協力により処理することができた。また、期間中に廊下・教室内の雑巾がけを呼びかけ、例年よりきれいな状態で過ごせた。		○			今年度以上に校内の清美化に努め、ゴミの分別を徹底し、減量化に努め、よりよい学習環境を整備していきたい。
P T A	保護者・教職員と連携を図り、円滑な PTA 活動につとめる	① 保護者との連携をする ② 教職員との連携をする ③ 計画的な係活動を行う	本年度は、支部の廃止など大幅な改造があったが、概ね PTA 役員との協力の下、円滑に運営することができた。		○			PTA 活動が縮小する中でも、必要な活動を精査して、継続していく必要がある。

※自己評価の基準は A：十分 B：ほぼ十分 C：もう少し D：不十分